

ポストドクター制度の在り方について

(文部科学省 科学技術・学術審議会 第13回人材委員会
資料2より抜粋(データ一部更新))

1. 「ポストドクター等1万人支援計画」概要・推移

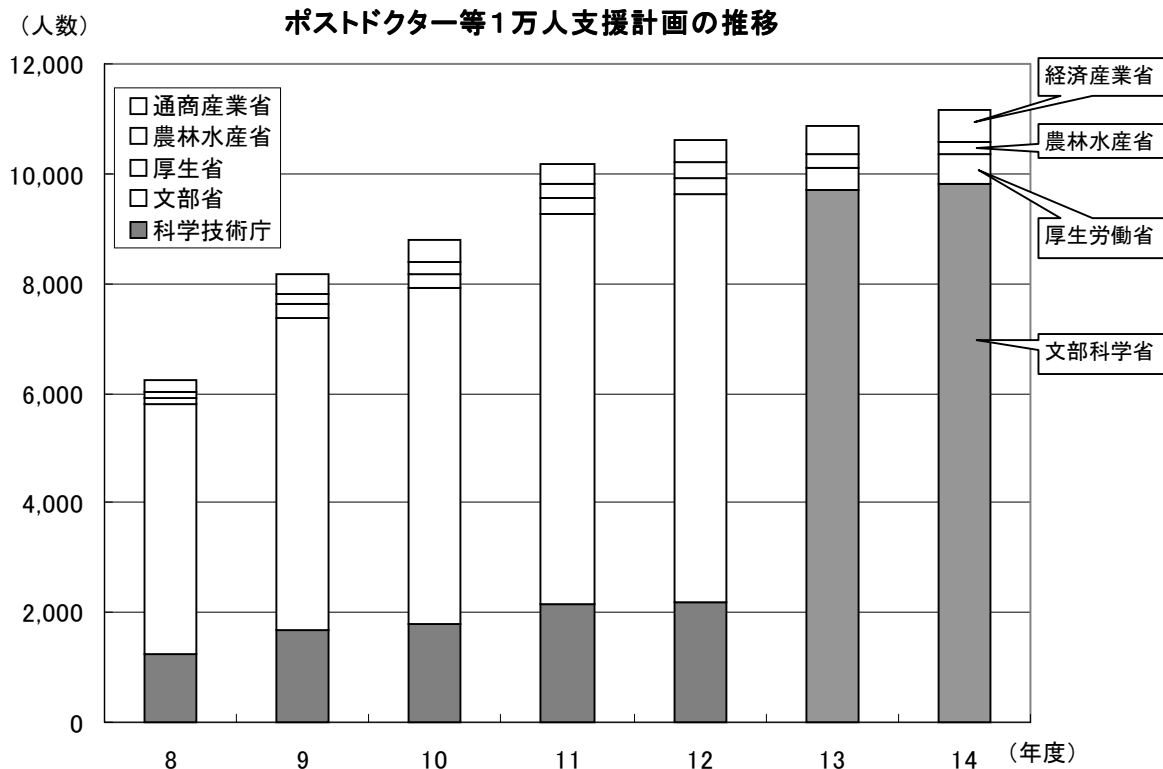
(趣旨)

優れた若手研究者（ポストドクター等）が研究に専念できる環境を整備することは、若手研究者の研究能力の涵養とともに、我が国の研究開発活動の活性化を図るために極めて有効である。平成8年7月の第1期科学技術基本計画において提唱された「ポストドクター等1万人支援計画」に基づき、関係省庁において、各種のポストドクター等支援制度を推進する。

【第1期科学技術基本計画（平成8年7月2日閣議決定）】
若手研究者層の養成、拡充等を図る「ポストドクター等1万人支援計画」を平成12年度までに達成するなどの施策により、支援の充実を図る。

(現状)

| | | | |
|----|--------|---|---------|
| | 平成8年度 | → | 平成14年度 |
| 人数 | 6,224人 | → | 11,127人 |
| 予算 | 249億円 | → | 479億円 |



2. 「ポストドクター等1万人支援計画」対象事業一覧

(文部科学省関係)

| 対象者 | 支援形態 | 事業名 | 事業主体 | H14人数 (人) | H14予算額 (百万円) |
|-------------------------|-----------|----------------------|-------------|--------------|-----------------|
| 博士課程 修了者等 (ポスドク) | フェロースhip型 | 特別研究員(PD) | 日本学術振興会 | 1,891(*) | 9,163 |
| | | 特別研究員(SPD) | 日本学術振興会 | 12 | 34 |
| | | 計 | | 1,903 | 9,197 |
| | 特殊法人雇用型 | 基礎科学特別研究員制度 | 理化学研究所 | 192 | 1,832 |
| | | 博士研究員流動化促進費 | 日本原子力研究所 | 100 | 918 |
| | | 特別研究員等 | 海洋科学技術センター | 15 | 99 |
| | | 宇宙開発特別研究員 | 宇宙開発事業団 | 45 | 362 |
| | | 任期付研究員制度 | 核燃料サイクル開発機構 | 17 | 164 |
| | | 計 | | 369 | 3,375 |
| | プロジェクト雇用型 | 戦略的創造研究推進事業(※) | 科学技術振興事業団 | 660 | 4,682 |
| | | 創造科学技術推進制度 | 科学技術振興事業団 | 96 | 803 |
| | | 計算科学技術活用型特定研究開発推進事業 | 科学技術振興事業団 | 66 | 520 |
| | | 地域結集型共同研究事業 | 科学技術振興事業団 | 120 | 882 |
| | | ITBL用公募型計算科学技術活用事業 | 科学技術振興事業団 | 4 | 34 |
| | | 未来開拓学術研究推進事業(※) | 日本学術振興会 | 303 | 1,704 |
| | | 地球フロンティアポストドクター研究員 | 宇宙開発事業団 | 5 | 20 |
| | | 地球フロンティアポストドクター研究員 | 海洋科学技術センター | 32 | 127 |
| | | 地球観測フロンティアポストドクター研究員 | 海洋科学技術センター | 16 | 58 |
| | | 計 | | 1,302 | 8,828 |
| | 国立大学等雇用型 | 非常勤研究員 | 国立大学等 | 581 | 2,266 |
| ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー非常勤研究員 | | 国立大学 | 340 | 1,327 | |
| 計 | | | 921 | 3,594 | |
| 小計 | | | | 4,495 | 24,994 |
| 博士課程 学生 | フェロースhip型 | 特別研究員(DC) | 日本学術振興会 | 3,106 | 6,592 |
| | 特殊法人型 | ジュニア・リサーチ・アソシエイト制度 | 理化学研究所 | 139 | 319 |
| | | 特別研究生 | 日本原子力研究所 | 60 | 81 |
| | 小計 | | | | 3,305 |
| 海外派遣 (ポスドク) | フェロースhip型 | 海外特別研究員 | 日本学術振興会 | 361 | 1,555 |
| | 小計 | | | | 361 |
| 外国人招へい (ポスドク) | フェロースhip型 | 外国人特別研究員 | 日本学術振興会 | 1,653 | 6,905 |
| | 小計 | | | | 1,653 |
| 合計 | | | | 9,814 | 40,445 |

(注1)「特別研究員(PD)(日本学術振興会)」の人数は、「科学技術特別研究員事業(科学技術振興事業団)」「(特殊法人雇用型)からの移管統合に係る継続支援分250人を含む。

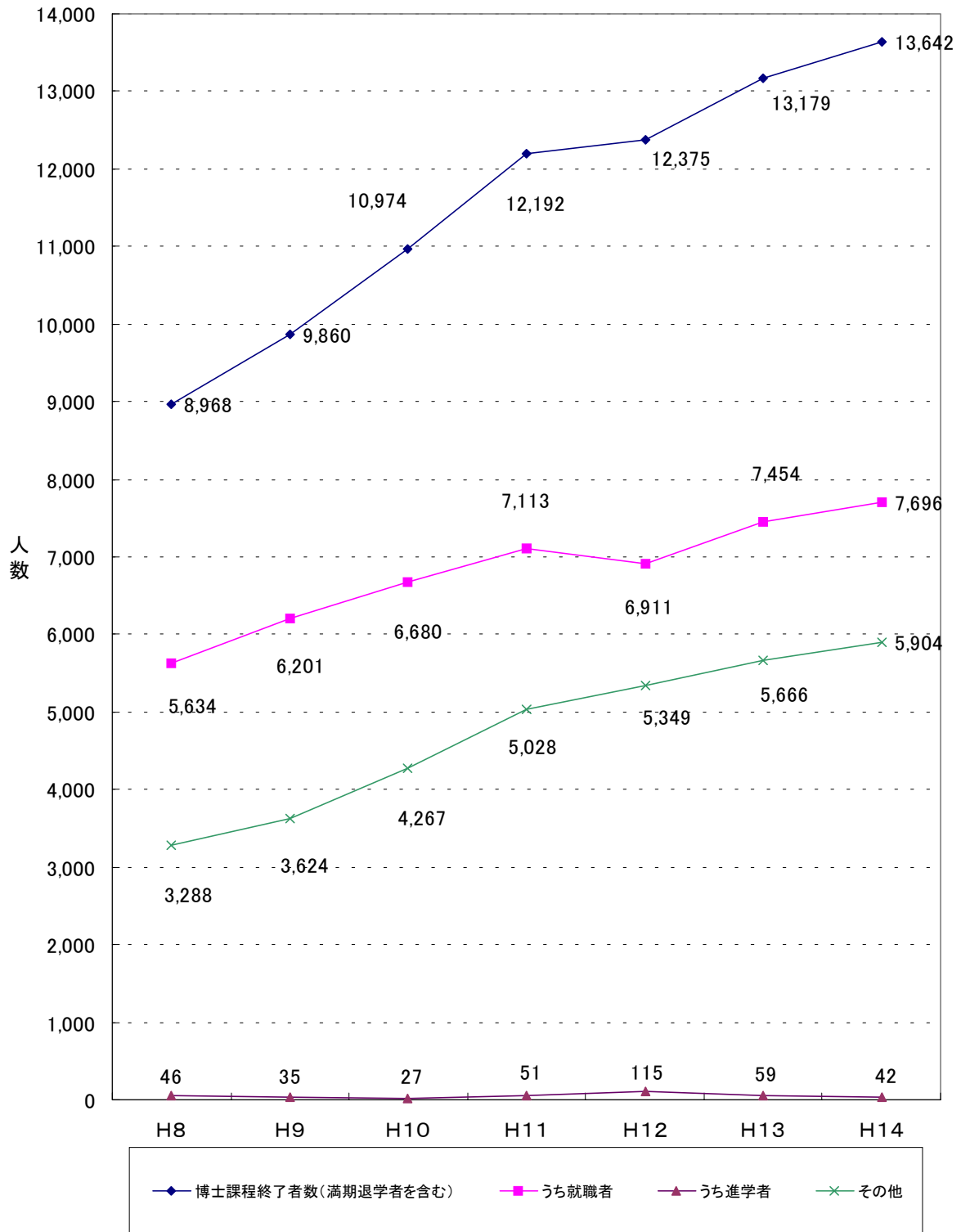
(注2)上記「※」は競争的資金を示す。

(文部科学省以外)

| 所管省庁 | 対象者 | 支援形態 | 事業名 | 事業主体 | H14人数 (人) | H14予算額 (百万円) |
|------------------|------------------------|-----------|---------------------------------|-----------------------------|--------------|-----------------|
| 厚生労働省 | 博士課程 終了者等 (ポスドク) | プロジェクト雇用型 | 厚生労働科学研究推進事業 (リサーチ・レジデント事業等) | 公益法人 | 541 | 3,002 |
| | | | 計 | | | |
| 農林水産省 | 博士課程 終了者等 (ポスドク) | プロジェクト雇用型 | 新技術・新分野創出のための 基礎研究推進事業(※) | 生物系特定産業技術 研究推進機構 | 150 | 1,100 |
| | | | 民間結集型アグリビジネス 創出技術開発事業(※) | 民間企業等 | 29 | 88 |
| | | | 先端技術を活用した 農林水産研究高度化事業(※) | 都道府県、大学、 独立行政法人、民間 | 44 | 323 |
| | | | 沖縄対応特別研究 | 農業技術研究機構 | 1 | 7 |
| | | | 計 | | | |
| 経済産業省 (中小企業庁) | 博士課程 終了者等 (ポスドク) | フェローシップ型 | 産業技術フェローシップ | 新エネルギー・産業技術 総合開発機構(NEDO) | 396 | 2,402 |
| | | プロジェクト雇用型 | 地域新生コンソーシアム 研究開発制度 | 経済産業省(内局) | 49 | 245 |
| | | | 地域新生コンソーシアム 研究開発制度(中小企業庁) | 中小企業庁(内局) | 73 | 146 |
| | 海外派遣 (ポスドク) | 能力開発支援型 | イノベーション人材養成事業 | 経済産業省(内局) | 30 | 100 |
| | 計 | | | | 548 | 2,893 |
| 他省庁合計 | | | | | 1,313 | 7,413 |
| 文部科学省合計 | | | | | 9,814 | 40,445 |
| 政府全体 | | | | | 11,127 | 47,859 |

(注)上記「※」は競争的資金を示す。

3. 大学院博士課程修了者数の推移(進路別)



※各年度、前年度の3月末に終了した人数で、学校基本調査報告書による。

※博士後期課程(一貫性博士課程の3年次、4年次及び5年次の課程を含む。)学生及び医歯学、獣医学関係の博士課程学生の合計人数。

4. 雇用型とフェローシップ型支援の状況

4-① 日本学術振興会特別研究員の分野別採用者数

○ポストドクター(注1)

(単位:人)

| | | 文学 | 法学 | 経済学 | 理学 | 工学 | 農学 | 医学 | 複合領域 | 計 |
|--------|--------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 平成13年度 | 新規 | 144 | 16 | 13 | 153 | 53 | 62 | 51 | 84 | 576 |
| | 継続(注2) | 243 | 42 | 17 | 306 | 91 | 113 | 97 | 124 | 1,033 |
| | 合計 | 387 | 58 | 30 | 459 | 144 | 175 | 148 | 208 | 1,609 |
| 平成14年度 | 新規 | 125 | 23 | 11 | 150 | 49 | 40 | 52 | 61 | 511 |
| | 継続(注2) | 257 | 33 | 23 | 293 | 99 | 122 | 94 | 146 | 1,067 |
| | 合計 | 382 | 56 | 34 | 443 | 148 | 162 | 146 | 207 | 1,578 |

(各年度4月1日現在)

※平成14年度新規は、国立試験研究機関等分を除く。

○大学院在学者(注3)

(単位:人)

| | | 文学 | 法学 | 経済学 | 理学 | 工学 | 農学 | 医学 | 複合領域 | 計 |
|--------|--------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 平成13年度 | 新規 | 107 | 21 | 15 | 212 | 158 | 85 | 78 | 153 | 829 |
| | 継続(注2) | 134 | 27 | 38 | 347 | 232 | 126 | 99 | 228 | 1,231 |
| | 合計 | 241 | 48 | 53 | 559 | 390 | 211 | 177 | 381 | 2,060 |
| 平成14年度 | 新規 | 97 | 20 | 15 | 188 | 156 | 87 | 68 | 132 | 763 |
| | 継続(注2) | 114 | 23 | 19 | 271 | 191 | 101 | 91 | 183 | 993 |
| | 合計 | 211 | 43 | 34 | 459 | 347 | 188 | 159 | 315 | 1,756 |

(各年度4月1日現在)

(注1) 大学院博士課程修了者等を対象とした特別研究員(PD)のことをさす。

(注2) 「継続」の分野内訳の人数は、推計である。

(注3) 大学院博士課程在学者を対象とした特別研究員(DC)のことをさす。

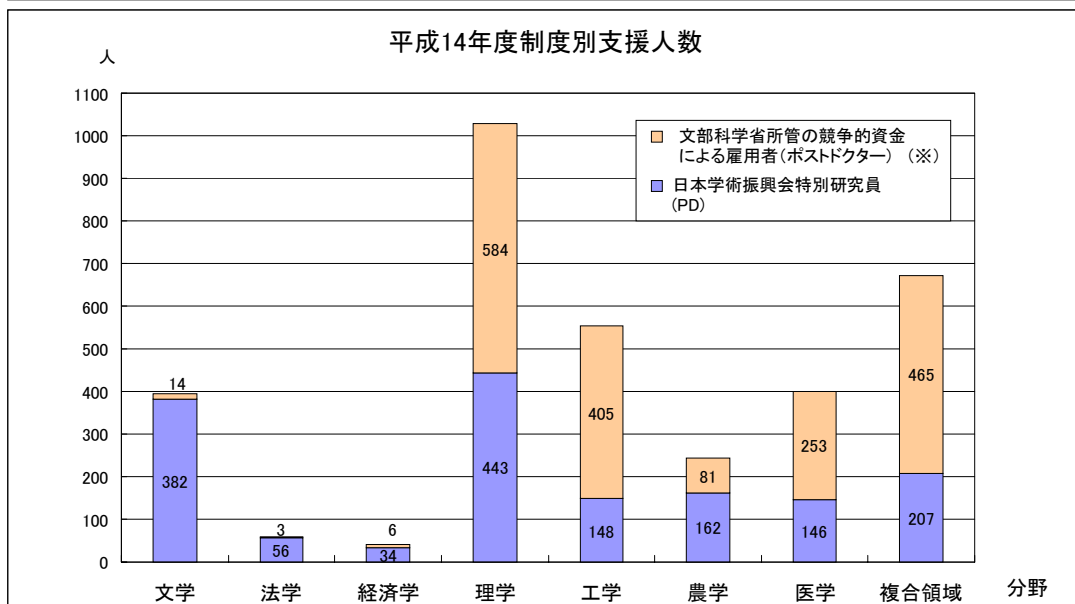
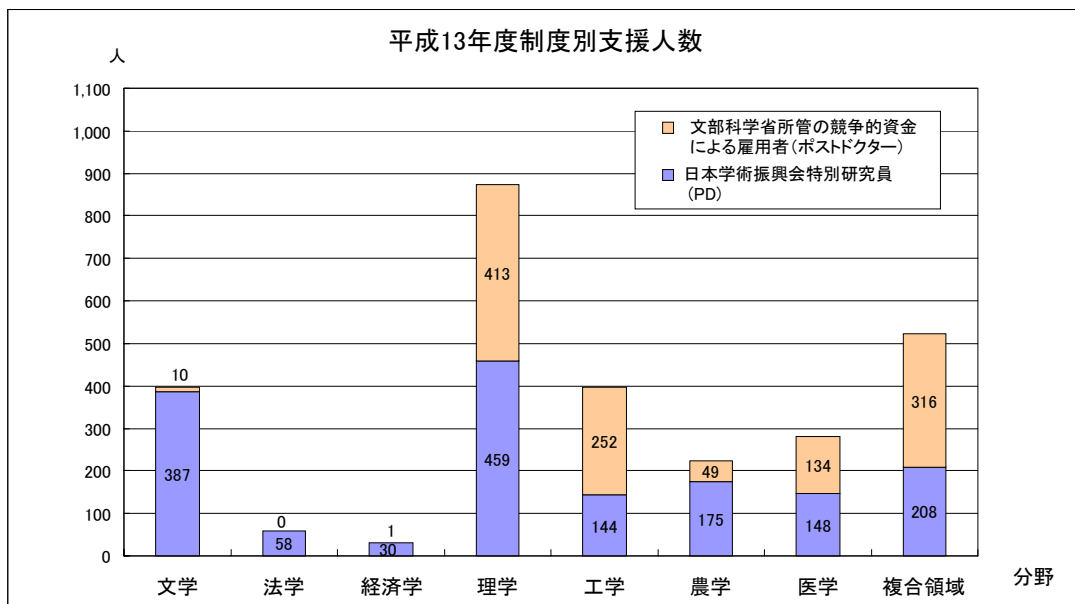
4-② 特別研究員(PD)と競争的資金による雇用者の分野別の状況(ポストドクター)

(単位:人)

| 平成13年度 | 文学 | 法学 | 経済学 | 理学 | 工学 | 農学 | 医学 | 複合領域 | 計 |
|------------------------------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 日本学術振興会特別研究員(PD) | 387 | 58 | 30 | 459 | 144 | 175 | 148 | 208 | 1,609 |
| 文部科学省所管の競争的資金による雇用者(ポストドクター) | 10 | 0 | 1 | 413 | 252 | 49 | 134 | 316 | 1,175 |

| 平成14年度 | 文学 | 法学 | 経済学 | 理学 | 工学 | 農学 | 医学 | 複合領域 | 計 |
|----------------------------------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 日本学術振興会特別研究員(PD) | 382 | 56 | 34 | 443 | 148 | 162 | 146 | 207 | 1,578 |
| 文部科学省所管の競争的資金による雇用者(ポストドクター) (※) | 14 | 3 | 6 | 584 | 405 | 81 | 253 | 465 | 1,811 |

※平成14年11月に調査した時点での平成14年度雇用者数の見込みである。

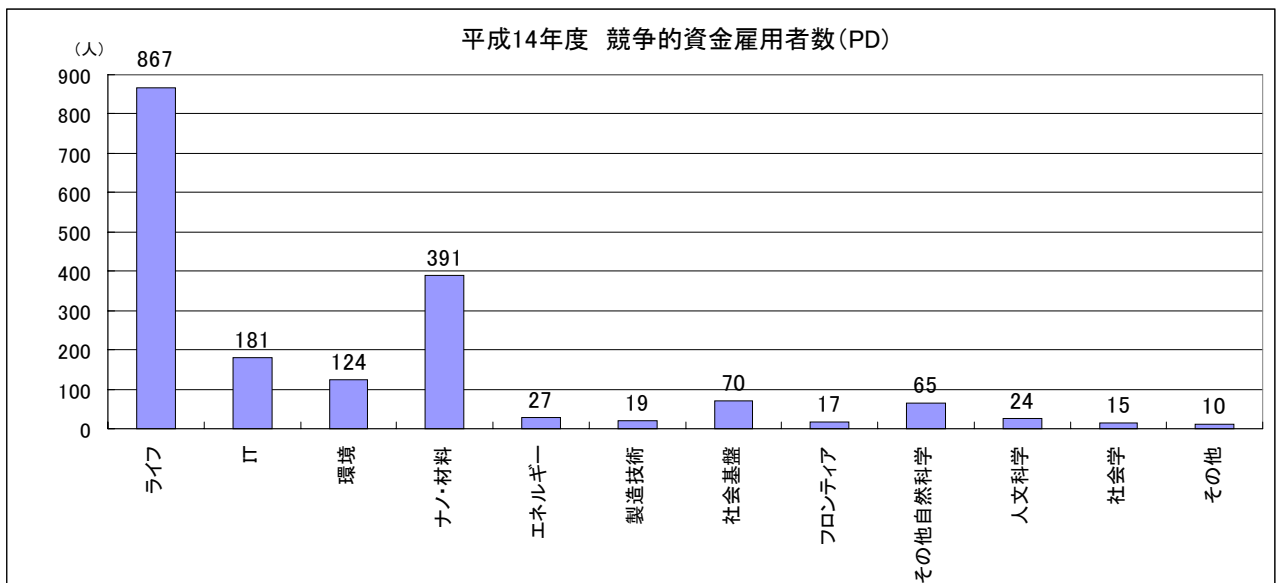
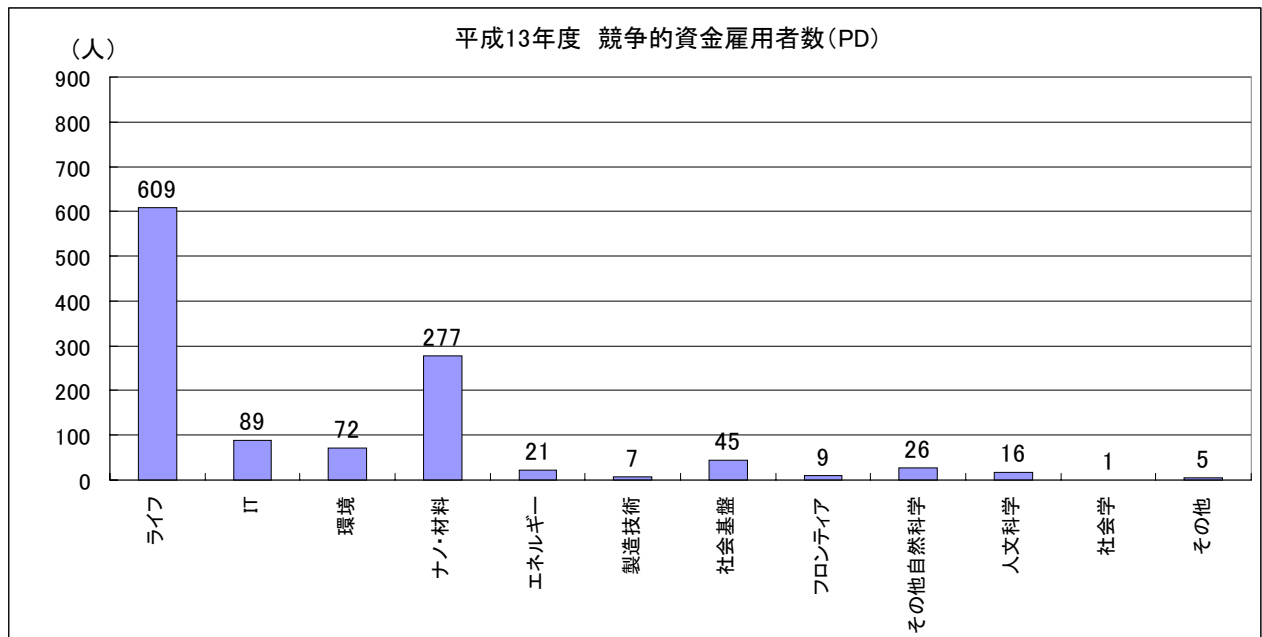


4-③ 競争的資金(文部科学省所管分)による雇用者の重点分野別の状況
(ポストドクター)

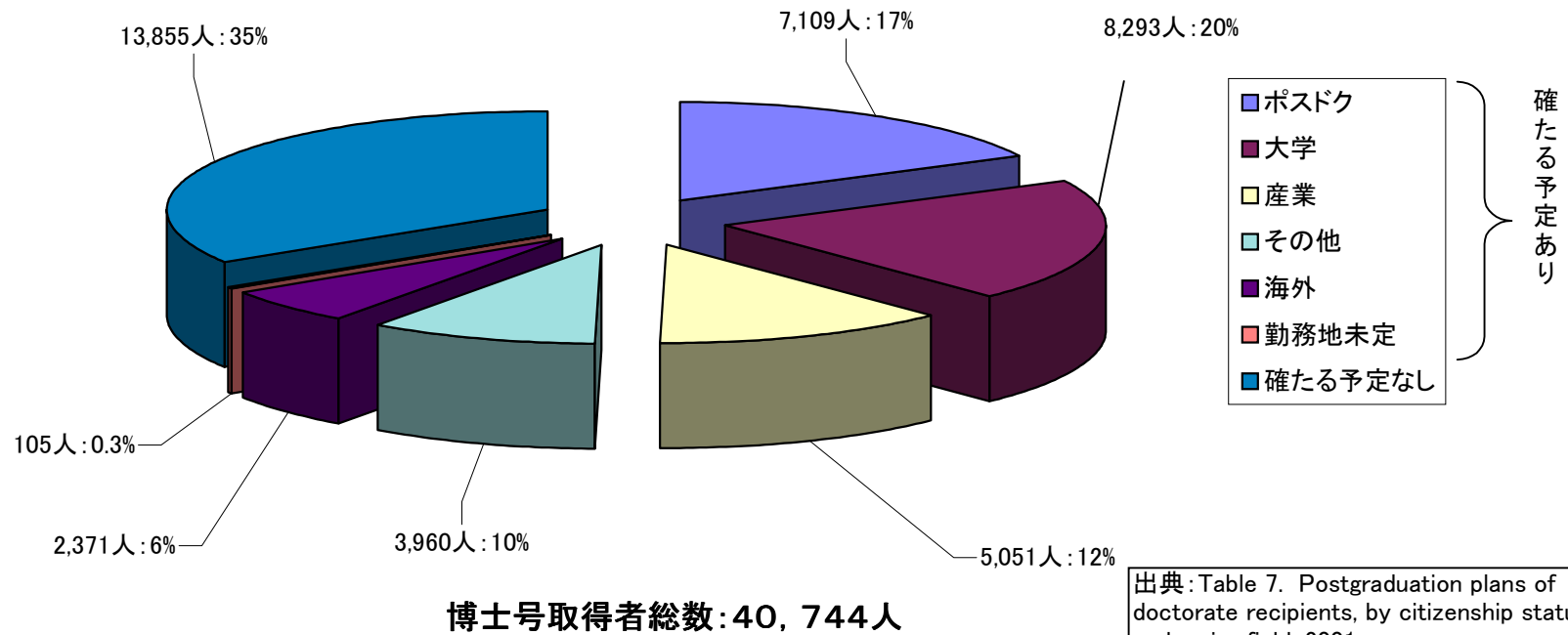
(単位:人)

| | ライフ | IT | 環境 | ナノ・材料 | エネルギー | 製造技術 | 社会基盤 | フロンティア | その他自然科学 | 人文科学 | 社会学 | その他 | 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-------|-------|------|------|--------|---------|------|-----|-----|-------|
| 平成13年度 | 609 | 89 | 72 | 277 | 21 | 7 | 45 | 9 | 26 | 16 | 1 | 5 | 1,175 |
| 平成14年度(※) | 867 | 181 | 124 | 391 | 27 | 19 | 70 | 17 | 65 | 24 | 15 | 10 | 1,810 |

※平成14年11月に調査した時点での平成14年年度雇用者数の見込みである。



5. 米国における博士号取得者(全分野)の卒業後の計画(2001年)



出典: Table 7. Postgraduation plans of doctorate recipients, by citizenship status and major field: 2001
Science and Engineering Doctorate Awards:2001

6. 米国における博士課程修了者(ポストドクター)を対象にした主な支援制度

(博士課程修了者対象)

| | | | | | |
|------------|--|--|--|---|--------------------------------|
| 1 制度名 | Fellowship for University Teachers | Resident, Cooperative and Postdoctoral Research Associateship Programs | Mathematical Sciences Postdoctoral Research Fellowship | National Research Service Awards: Individual Postdoctoral Fellowship | Postgraduate Research Programs |
| 2 実施機関 | 人文科学基金 <NEH> | National Research Council <NRC> | 米国科学財団 <NSF> | 国立保健研究所 <NIH> | エネルギー省 <DOE> |
| 3 趣旨・目的 | 学位授与できる大学の教官の能力の向上を援助する | ポスドク研究者に国立研究機関での研究の機会を与えるため | 若手研究者の養成 | PDが研究に専念できる機会を与えること | 若手研究者の養成 |
| 4 対象分野 | 人文系の全分野。但し、調査、講義の準備、芸術活動、歴史的かつ哲学的方法を用いない社会科学は除く。 | 理学、工学の全分野 研究を行う機関は、NIH、NASA、Armyなど約40の国立研究機関 | 数学及び統計学 | 生命科学、行動科学 | |
| 5 申請資格者 | ①米国市民 ②米国に3年以上居住する者 | ①特定の機関を除き、国籍制限なし | ①米国市民及び永住権所有者 ②数学及び同等の分野のPh.D取得者 ③学位を取得してから2年以 | ①米国市民及び永住権所有者 ②Ph.D、M.D.又は同等の外国の学位を所有すること | ①修士号取得者又は博士号取得者 |
| 6 採用期間 | 6～12月 | 1年(プログラムにより3年まで更新可) | 2～3年 | 1～3年 | 2年上限 |
| 7 支給内容 | 最高40,000ドル 若干の旅費は支給可能 | 27,750～44,000ドル 最高 84,500ドル | 4,000ドル/月 研究費 7,500ドル 大学へ 4,500ドル | 26,916～42,300ドル/年 (学位取得後の経験年数による) 授業料 3,000ドルまで 機関へ 私立 4,000ドル 公立 3,000ドル | 28,860～48,000ドル 赴任旅費 規定額 |
| 8 申請・選考方法等 | 3月～5月 個人で申請し、専門家による書類審査 | 年3回専門家による委員会で書面審査 (評価の高い者から枠内で採用) | 10月申請受付 個人申請 | 書面により委員会で審査 年3回 | |
| 9 採用者数 | | | 2002年(採用枠) 30～35人 | 2000年 1,867人 | |

7. 「ポストドクター等1万人支援計画」対象事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|--|---|---|--|---|--|
| 所 管 省 庁 | 文部科学省 | | | | | | |
| 対 象 者 | 博士課程修了者等(ポstdク) | | | | | | |
| 支 援 形 態 | フェローシップ型 | | | 特殊法人雇用型 | | | |
| 事 業 名 | 特別研究員(PD) | 特別研究員(SPD) | 基礎科学特別研究員制度 | 博士研究員流動化促進費 | 特別研究員等 | 宇宙開発特別研究員 | 任期付研究員制度 |
| 事 業 主 体 | 日本学術振興会 | 日本学術振興会 | 理化学研究所 | 日本原子力研究所 | 海洋科学技術センター | 宇宙開発事業団 | 核燃料サイクル開発機構 |
| 事 業 概 要 | 若手研究者に、その研究活動の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者を養成する。 | 世界最高水準の研究を行う研究能力を有する若手研究者を助教授相当の待遇で採用し、世界レベルでの活躍が期待される若手研究者を養成する。 | 若手研究者に自発的かつ主体的に研究できる場を、最先端の研究環境を持つ理研が提供することにより、流動的体制下での独創的・基礎的研究を推進するとともに、研究所の活性化及び研究分野の拡大・充実を図る。 | 原研における先導的プロジェクト又は、基礎・基盤研究の推進を図るため、独創性に富んだ若手研究者を受け入れる。 | 海洋科学技術センターの委嘱により、海洋に係る総合的試験研究に参画することにより、研究開発をより効果的に推進する。 | 宇宙開発に関連する若手研究者へ一定期間研究環境を提供することにより、宇宙開発に係る研究者を育成し、科学技術の先端分野としての裾野を広げるとともに、若手研究者の持つアイデアを発掘し、事業団の研究開発業務に資することを目的とする。 | サイクル機構では、これまで自らの研究開発に大学等の研究者、技術者の積極的な参画を求めてきており、任期付研究員制度は、博士の学位を持ち、独創性に富んだ若手研究者を2～3年間の期間を限定して採用し、サイクル機構の研究開発を効果的に行う。 |
| (単位:百万円) 平成14年度予算額 | 9,163 | 34 | 1,832 | 918 | 99 | 362 | 164 |
| (単位:人) 平成14年度予算人数 | 1,891 <small>(うち「科学技術特別研究員事業(科学技術振興事業団)」からの移管継続分250人)</small> | 12 | 192 | 100 | 15 | 45 | 17 |
| (単位:人) 平成13年度支援実績 | 1,609 | — | 227 | 100 | 12 | 32 | 17 |
| 応 募 資 格 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者(博士号取得見込みの者を含む) ・34歳未満の者(医・歯・獣医は36歳未満) ・研究に従事する研究室を大学院在学当時の所属研究室(出身研究室)以外の研究室に選定した者(平成15年度～) | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者(博士号取得見込みの者を含む) ・34歳未満の者(医・歯・獣医は36歳未満) ・研究に従事する機関を大学院在学当時の所属機関(大学等)以外の研究機関に選定した者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 ・35歳未満の者 | ・博士号取得者又は取得見込みの者 ・35歳以下の者 | ・博士号取得者又は取得見込みの者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 ・36歳未満の者 | ・博士号取得者又はこれと同等の能力を有する者 ・35歳以下の者 |
| 支 援 内 容 (平成14年度) | 379千円/月(研究奨励金)、研究費年額150万円以内交付 | 468千円/月(研究奨励金)、研究費年額300万円以内交付 | 510千円程度/月 | 500千円程度/月 | 550千円程度/月 | 520千円/月 通勤手当 | 500千円程度/月 研究費150万円程度/年 通勤手当、住居手当 |
| 支 援 期 間 | 3年間 | 3年間 | 上限3年(契約は1年更新) | 3年間 | 原則1年(更新有り) | 原則3年 | 原則3年間 |
| 選 考 方 法 | 日本学術振興会の審査会において選考(書面選考、面接選考) | 日本学術振興会の審査会において選考(書面選考、面接選考) | 研究分野別に審査委員が審査を行い、その結果に基づいて推進委員会で採用者を決定。 | 原研所員及び外部有識者で構成される業績審査委員会で審査 | 海洋科学技術センター職員が実施 | 宇宙開発事業団職員及び外部有識者が実施 | サイクル機構の役員等で構成される審査委員会で審査(書類審査、面接審査) |
| 備 考 | 平成14年度より科学技術特別研究員事業(科学技術振興事業団)を統合。なお、科学技術特別研究員平成13年度支援実績は297人。 | 平成14年度創設 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|--|---|--|--|---|---|
| 所 管 省 庁 | 文部科学省 | | | | | | |
| 対 象 者 | 博士課程修了者等(ポスドク) | | | | | | |
| 支 援 形 態 | プロジェクト雇用型 | | | | | | |
| 事 業 名 | 戦略的創造研究推進事業(※) | 創造科学技術推進制度 | 計算科学技術活用型 特定研究開発推進事業 | 地域結集型共同研究事業 | ITBL用公募型 計算科学技術活用事業 | 未来開拓学術研究推進事業(※) | 地球フロンティアポスドクター研究員 |
| 事 業 主 体 | 科学技術振興事業団 | 科学技術振興事業団 | 科学技術振興事業団 | 科学技術振興事業団 | 科学技術振興事業団 | 日本学術振興会 | 宇宙開発事業団 |
| 事 業 概 要 | 第2期科学技術基本計画の重点4分野を中心に、国が設定する戦略目標の達成に向け、「新技術の創製に資する」、「国の戦略に基づく」、「重点化」した基礎研究を推進する。そのために、若手の活力を活用すべき場合には若手研究者を登用する。 | 今後の新しい源流となる新しい思想を生み出すとともに、我が国独自の科学技術の芽を積極的に創り出すための基礎研究を推進する。 | 高速ネットワーク等の情報基盤及び計算科学技術の活用等ネットワークシステムを利用した計算科学技術を推進する。 | 我が国経済の再構築には、我が国独自の科学技術の育成が不可欠であり、全国各地域の科学技術セクターの結集が緊要である。そこで、地域の各セクターによる基礎研究の成果と地域R&D型企業のニーズに着目し、これを組織的、人的に結合させる地域結集型の共同研究システムをJSTが選定した各地域に構築することにより、新技術・新産業の創生に資する。 | 各種データベースと計算科学技術を活用したアプリケーションを統合化して、統合シミュレーションシステムの開発を実施する。 | 未来開拓学術研究推進事業に係る研究プロジェクトに若手研究者を参加させることにより、研究の一層の進展を促進するとともに、若手研究者の育成を図る。 | 地球フロンティア研究推進のため、国内外の優秀な研究者へ一定期間研究環境を提供することにより、研究者を育成し、科学技術の先端分野としての裾野を広げるとともに、研究者の持つアイデアの発掘に必要な研究課題を設定し、期限を区切って集中的な研究の実施により、事業団の研究開発業務に資する。 |
| (単位:百万円) 平成14年度予算額 | 4,682 | 803 | 520 | 882 | 34 | 1,704 | 20 |
| (単位:人) 平成14年度予算人数 | 660 | 96 | 66 | 120 | 4 | 303 | 5 |
| (単位:人) 平成13年度支援実績 | 456 | 68 | 29 | 38 | 0 | 290 | 5 |
| 応 募 資 格 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 ・原則35歳以下の者 | ・博士号取得者又はこれと同等の能力を有する者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 ・原則35歳以下の者 | ・博士の学位を有する者又はこれと同等以上の研究能力を有する者 ・40歳未満の者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 |
| 支 援 内 容 (平成14年度) | 540千円程度/月 通勤手当 社会保険料等事業主負担分 | 540千円程度/月 通勤手当 社会保険料等事業主負担分 | 615千円程度/月 通勤手当 社会保険料等事業主負担分 | 700万円程度/年(諸手当含む) | 615千円程度/月 通勤手当 社会保険料等事業主負担分 | 教育職俸給表初任給基準表(助手)に準じて算出 ・通勤手当 ・住居手当 | 月額330,000円程度を支給(通勤手当、社会保険等を含む)、住宅手当 |
| 支 援 期 間 | 研究代表者と相談の上、決定(最長5年) | 総括責任者と相談の上、決定(最長5年) | 代表研究者と相談の上、決定(最長3年) | 最長5年 | 代表研究者と相談の上、決定(最長3年) | 最長5年 | 原則1年(更新有り,3年まで) |
| 選 考 方 法 | 研究代表者及び科学技術振興事業団 | 総括責任者及び科学技術振興事業団 | 代表研究者及び科学技術振興事業団 | JSTの委託先が研究計画、研究実績により選考 | 代表研究者及び科学技術振興事業団 | プロジェクトリーダー又はコアメンバーの推薦を得られた者 | 地球観測フロンティア研究システム長等及び事業団役員が、研究計画、研究実績等により行う。 |
| 備 考 | | | | | | | |

(注)事業名に「※」のあるものは、競争的資金であることを示す。

| | | | | |
|-----------------------|--|---|--|---|
| 所 管 省 庁 | 文部科学省 | | | |
| 対 象 者 | 博士課程修了者等(ポスドク) | | | |
| 支 援 形 態 | プロジェクト雇用型 | | 国立大学等雇用型 | |
| 事 業 名 | 地球フロンティア ポスドクター研究員 | 地球観測フロンティア ポスドクター研究員 | 非常勤研究員 | ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 非常勤研究員 |
| 事 業 主 体 | 海洋科学技術センター | 海洋科学技術センター | 国立大学等 | 国立大学 |
| 事 業 概 要 | 地球フロンティア研究として、流動研究員制度により、気候変動予測実現のため、海洋-大気相互作用に係る基礎的、学術的な研究を推進し、地球変動現象の解明とその予測モデルに係る研究を推進する。 | 地球観測フロンティア研究として、流動研究員制度により、モデル研究に必須な観測データを拡充するとともに、地球規模の諸現象解明を推進する。 | 国立大学や大学共同利用機関が行う優れたプロジェクト等にポスドクレベルの若手研究者を非常勤研究員として参画させ、研究プロジェクト等の円滑な遂行とともに、研究者としての資質向上等若手研究者の養成・確保を図る。 | 国立大学の大学院において、ベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発を推進するとともに、高度な専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成する。 |
| (単位:百万円) 平成14年度予算額 | 127 | 58 | 2,266 | 1,327 |
| (単位:人) 平成14年度予算人数 | 32 | 16 | 581 | 340 |
| (単位:人) 平成13年度支援実績 | 39 | 20 | 957 | 未集計 |
| 応 募 資 格 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 | ・博士号取得者又はこれと同等の研究能力を有する者 | ・博士号取得者 ・35歳未満の者 | ・博士号取得者又は博士号の取得が確実な者(人文・社会科学分野にあっては、博士号取得者に相当する能力を有すると認められた者を含む) ・35歳未満 |
| 支 援 内 容 (平成14年度) | 月額330,000円程度を支給(通勤手当、社会保険等を含む)、住宅手当 | 月額330,000円程度を支給(通勤手当、社会保険等を含む)、住宅手当 | 月額325,000円程度を支給(通勤手当相当給与を含む) | 月額325,000円程度を支給(通勤手当相当給与を含む) |
| 支 援 期 間 | 原則1年(更新有り) | 原則1年(更新有り) | 原則2年(3年を上限とする) | 原則2年(3年を上限とする) |
| 選 考 方 法 | 地球フロンティア研究システム長等及び海洋科学技術センター職員が、研究計画、研究実績等により行う。 | 地球観測フロンティア研究システム長等及び海洋科学技術センター職員が、研究計画、研究実績等により行う。 | 各大学等の人事選考の会議を経て、機関の長が行う | 各大学等の人事選考の会議を経て、機関の長が行う |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | |
|-----------------------|--|--|---|--|--|
| 所 管 省 庁 | 文部科学省 | | | | |
| 対 象 者 | 博士課程学生 | | | 海外派遣(ポスドク) | 外国人招へい(ポスドク) |
| 支 援 形 態 | フェローシップ型 | 特殊法人型 | | フェローシップ型 | フェローシップ型 |
| 事 業 名 | 特別研究員(DC) | ジュニア・リサーチ・アソシエイト制度 | 特別研究生 | 海外特別研究員 | 外国人特別研究員 |
| 事 業 主 体 | 日本学術振興会 | 理化学研究所 | 日本原子力研究所 | 日本学術振興会 | 日本学術振興会 |
| 事 業 概 要 | 若手研究者に、その研究活動の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者を養成する。 | 大学院博士課程在籍者を理研の研究環境に導入して、豊富な知識と経験を有するシニア研究者と柔軟な発想と活力に富む若手研究者の融合により、研究所の活性化及び創造的・基盤的研究を推進する。 | 大学院博士課程学生等を原研で行う研究開発に参加させることにより、その進展に資するとともに、原子力の研究者養成の一助とする。 | 我が国の学術研究の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者に、渡航費、研究費等を支給し、海外の大学等の研究機関において長期研究に専念させる。 | 諸外国の若手研究者に対し、我が国の大学・試験研究機関等において、日本側受入研究者の指導のもとに、共同して研究に従事する機会を提供し、個々の研究の進展に資するとともに、我が国の研究者に学問的刺激を与え、学術研究の進展に資する。 |
| (単位:百万円) 平成14年度予算額 | 6,592 | 319 | 81 | 1,555 | 6,905 |
| (単位:人) 平成14年度予算人数 | 3,106 | 139 | 60 | 361 | 1,653 |
| (単位:人) 平成13年度支援実績 | 2,060 | 165 | 60 | 228 | 1,340 |
| 応 募 資 格 | ・大学院博士課程後期在学者(博士課程後期への進学予定者を含む) ・34歳未満の者(医・歯・獣医は36歳未満) | ・後期博士課程在籍者 ・30歳未満の者 | ・大学院在学者。 ・博士課程修了後2年以内の大学院研究生。 | ・大学等学術研究機関、試験研究機関等の常勤の研究者 ・大学等学術研究機関、試験研究機関等を希望する博士号取得者または見込みの者 ・34歳未満の者 | ・我が国と国交のある国の国籍を有する者 ・博士号取得者 ・博士号取得後6年未満の者 |
| 支 援 内 容 (平成14年度) | 205千円/月(研究奨励金) 研究費年額150万円以内交付 | ・謝金(約17万円/月) | ・奨励金 ・出張費、旅費 | ・渡航費 ・滞在費、研究活動費(派遣先国により異なる、年額約380万~520万円を支給) | ・渡航費 ・滞在費(月額392,000円) ・研究費を年額150万円以内交付 |
| 支 援 期 間 | 2年間又は3年間 | 上限3年(但し契約は1年更新) | 1年(更新可) | 2年 | 2年(但し、COEは12ヶ月、米国研究者特別枠・短期は6ヶ月) |
| 選 考 方 法 | 日本学術振興会の審査会において選考(書面選考、面接選考) | ・研究分野別に審査委員会が審査を行い、その結果に基づいて推進委員会で採用者を決定。 ・審査委員会、推進委員会は外部有識者等で構成。 | 原研職員が実施 | 日本学術振興会の審査会(書面選考、面接選考) | (国内募集)国内の大学等の研究者が当該研究機関を通じて申請し、学術審査会において選考。(外国推薦)諸外国の代表的な学術機関からの推薦により採用。 |
| 備 考 | | | | 若手研究者海外派遣:平成13年度 51人 | |

| | | | | | |
|-----------------------|--|---|---|--|--|
| 所 管 省 庁 | 厚生労働省 | 農林水産省 | | | |
| 対 象 者 | 博士課程修了者等(ポスドク) | 博士課程修了者等(ポスドク) | | | |
| 支 援 形 態 | プロジェクト雇用型 | プロジェクト雇用型 | | | |
| 事 業 名 | 厚生労働科学研究推進事業 (リサーチ・レジデント事業等) | 新技術・新分野創出のための基 礎研究推進事業(※) | 民間結集型アグリビジネス創 出技術開発事業(※) | 先端技術を活用した農林水 産研究高度化事業(※) | 沖縄対応特別研究 |
| 事 業 主 体 | 公益法人 | 生物系特定産業技術 研究推進機構 | 民間企業等 | 都道府県、大学、 独立行政法人、民間 | 農業技術研究機構 |
| 事 業 概 要 | 若手研究者を試験研究 機関等へ派遣し厚生労働 科学研究に参画させ、研 究水準の推進を図ると ともに、将来の我が国の厚 生労働科学研究の中核と なる人材の育成を図る。 | 独立行政法人、大学等に おいて、ポスドクターを外部 研究者として参画させ、新し い発想に立って生物機能を 高度に活用した新技術・新 分野創出を図るための基礎 研究を推進する。 | ポスドクター等の若手 研究者の積極的活用を図 り、民間企業等が、大学・ 独法等のポテンシャルを 活用して研究開発を行 い、アグリビジネスの活性 化を図る。 | 先端的農業経営を支え る研究開発の高度化に向 けて、若手研究者を参画 させ、地域における産学 官の一層の連携を図りつ つ、地域の活性化につな がる多様で優れた実用化 技術開発を推進する。 | 「沖縄県北部地域の振 興に関する方針」踏まえ、 沖縄県北部地域の市町 村等から要望された課題 のうち、緊急性及び重要 性の高いものについて、 現地で研究を試験研究を 行う際に、現地要員として ポスドクを雇用する。 |
| (単位:百万円) 平成14年度予算額 | 3,002 | 1,100 | 88 | 323 | 7 |
| (単位:人) 平成14年度予算人数 | 541 | 150 | 29 | 44 | 1 |
| (単位:人) 平成13年度支援実績 | 未集計 | 198 | 23 | — | 1 |
| 応 募 資 格 | ・博士号取得者又はこれ と同等の研究能力を有す る者 ・39歳以下の者 | ・博士号取得者又はこれと 同等の研究能力を有する者 | ・博士号取得者又はこれ と同等の研究能力を有す る者 | ・博士号取得者又はこれ と同等の研究能力を有す る者 | ・博士号取得者又はこれ と同等の研究能力を有す る者 |
| 支 援 内 容 (平成14年度) | 401,856円/月 288,736円/月 | 570,000千円/月 | 各研究課題実施機関によ り異なる | 各研究課題実施機関によ り異なる | 各研究課題実施機関によ り異なる |
| 支 援 期 間 | 原則1年 | 3～5年 | 最長3年 | 各研究課題実施期間内 | 最長3年 |
| 選 考 方 法 | 研究事業ごとに表会員が 審査を行う。 | 採択された研究課題の研究 代表者の推薦により生物系 特定産業技術研究推進機構 が審査 | 各研究課題実施機関が 実施 | 各研究課題実施機関が 実施 | 各研究課題実施機関が 実施 |
| 備 考 | | | | 平成14年度創設 | |

(注)事業名に「※」のあるものは、競争的資金であることを示す。

| | | | | |
|-----------------------|---|---|---|---|
| 所 管 省 庁 | 経済産業省 | | | |
| 対 象 者 | 博士課程修了者等(ポスドク) | | | 海外派遣(ポスドク) |
| 支 援 形 態 | フェロースhip型 | プロジェクト雇用型 | | 能力開発支援型 |
| 事 業 名 | 産業技術フェロースhip | 地域新生コンソーシアム 研究開発制度 | 地域新生コンソーシアム 研究開発制度(中小企業庁) | イノベーション人材養成事業 |
| 事 業 主 体 | 新エネルギー・産業技術 総合開発機構(NEDO) | 経済産業省(内局) | 中小企業庁(内局) | 経済産業省(内局) |
| 事 業 概 要 | NEDOにおいて、公募を経て採用された博士課程学生に奨励金を支給するとともに、最先端の研究現場に派遣し、先端的な研究に携わらせることにより、優れた資質を有した技術者の養成を図る。 | 地域において、大学等の技術シーズや知見を活用するとともに、研究協力者としてポスドク等の若手研究者を参画させ、地域における産学官の強固な共同研究体制(地域新生コンソーシアム)を組むことにより、実用化に向けた高度な研究開発を実施する。 | 地域において、大学等の技術シーズや知見を活用するとともに、研究協力者としてポスドク等の若手研究者を参画させ、地域における産学官の強固な共同研究体制(地域新生コンソーシアム)を組むことにより、実用化に向けた高度な研究開発を実施する。 | 起業計画、能力等によって選抜された優秀な技術系人材(ポスドク等の社会人研究者を含む)を海外の大学経由でベンチャー企業等の実務現場に派遣し、将来のベンチャー企業の創業やその経営支援等を担う人材を養成する。 |
| (単位:百万円) 平成14年度予算額 | 2,402 | 245 | 146 | 100 |
| (単位:人) 平成14年度予算人数 | 396 | 49 | 73 | 30 |
| (単位:人) 平成13年度支援実績 | 415 | 未集計 | 未集計 | — |
| 応 募 資 格 | ・博士号取得者(見込みの者を含む)又は実務経験が10年以上有る。(I種) ・修士課程修了者又は実務経験が5年以上有る者。(II種) ・大学卒業者又はこれと同等の実務経験者。(III種) ・博士課程後期在学者。 | ・博士号取得者又はこれと同等の能力を有する者。 | ・博士号取得者又はこれと同等の能力を有する者。 | ・社会人研究者・技術者(ポストドクター、大学院生等を含む)で、専門技術分野で修士課程修了又は同等のレベルの知識・実務経験を有する者。 |
| 支 援 内 容 (平成14年度) | I種 50万円/月 II種 37.5万円/月 III種 22.5万円/月 大学院在学者 12万円(奨励金)/月 (すべて各種手当込み) | 500万円/年 | 200万円/年 | 研究事業を遂行する仲介期間へ、仲介業務経費、研修生赴任旅費、受入機関経費等を定額補助。 |
| 支 援 期 間 | | 原則2年 | 原則2年 | 1年 |
| 選 考 方 法 | NEDO職員、学識経験者で構成されるNEDO事業推進委員会が研究計画、研究実績等により実施。 | 委託先、プロジェクトリーダーが選考。 | 委託先、プロジェクトリーダーが選考。 | 仲介機関が選定 |
| 備 考 | | | | 平成14年度創設 |